



(4)共同活動者

小林俊一(総合経営学部総合経営学科)、矢野口聡(松商短期大学部 経営情報学科)

※プログラミング教室実施に向けた教材開発及び教室運営、学生の指導。



(5)成果の公表(活動発表・論文執筆等)

松本大学ホームページ「新着ニュース」欄に報告を掲載。

2. 長野県高等学校科学協会・松本大学 合同理科教育検討情報交換会

総合経営学部総合経営学科 室谷 心

(1)活動計画

長野県内の理科教員の研究会である長野県高等学校科学協会と本学の理科教育関連教員と合同で、授業改善検討情報交換会を年に2回程度本学を会場に開催する。

検討対象は小・中学校及び高等学校の理科教育の改善であり、本学学生の教育ではない。この授業改善検討情報交換会は今後定期的に開催していきたいと計画している。

(2)活動内容

新型コロナウイルス感染症感染防止対策で、年2回予定していたが年1回にし、高校生対象の「令和4年度 科学オリンピック養成講座」と合同での開催とした。

「令和4年度 科学オリンピック養成講座」は「本県のものづくり、イノベーションを支え、世界で活躍できる科学技術人材を育成するために、実力養成講座を実施し、自然科学等を学ぶことの面白さを伝え、各種科学コンテスト予選参加者を全県的に増やすとともに、予選・本選を勝ち抜いていくための実力を

養成する。」ことを目的としたもので、長野県教育委員会事務局学びの改革支援課主催のイベントである。物理オリンピック日本委員会委員の室谷が講師を務めた。Zoomで開催し、参加者は高校生4名、高等学校教員5名であった。

科学オリンピック養成講座終了後に開催予定であった、授業改善検討情報交換会は、科学オリンピック養成講座が長時間にわたったため、今回は見送りとなった。

(3)活動の成果

「全国物理コンテスト 物理チャレンジ」(通称物理オリンピック)の1次予選の理論問題の解説と、実験課題の狙いについて、昨年の問題や応募レポート例を題材に解説を行った。

終了後の生徒アンケートでは実験の解説が好評であった。また、高校の教員からの感想では、大会の開催時期、出題範囲と高校における学修の時期とのマッチングが悪いのではないかと意見が寄せられ、高校における学習過程の実際について、次回の養成講座での参考となるアドバイスを受けた。

授業改善検討情報交換会については、外部からの参加希望者がなく、奥原、波多腰、室谷の3人で科学オリンピック養成講座の今後の可能性などについて、検討議論を行った。

科学オリンピック養成講座については、生徒と一緒に参加された、松商学園高校の上條康司教諭から終了後生徒アンケートと合わせてアドバイスをいただいた。

3. 地域資源の発掘と活用を通じた地域づくりの推進

総合経営学部観光ホスピタリティ学科 増尾 均

(1)活動計画

本事業は、学生が参加し松本の田川地区・中央地区を対象として、「ひと」「もの」「こと」といった地域資源の発掘を行い、それらを活かしたまちづくりに取り組むものである。これまで観光ホスピタリティ学科では、田川地区および中央地区の地域づくりに取り組んできた。例えば、松本市田川地区では、松林邸のケヤキの保存活動に取り組み、けやき祭りやけやきっ子寺子屋などを実施してきた。この松林邸のケヤキは渚の地盤の地固めや松本城の築城・改築を見越して植えられた重要な地域資源と考えられる。2020年以降は新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から活動が制約されたが、2021年度は秋以降状況が改善されたことから視察研修を除いて計画に沿った取り組みが進められている。

また特筆すべき点として、この間、中央地区において長年の課題であった「松本電気館」をカウンターである上土まちづくり協議会が借り上げ正面を公開したことで歴史的な資源である「電気館」に対する注目度が大きく高まった。

2022年度は「電気館」をはじめとする、資源を掘り起こし、地域の歴史的・文化的遺産の保存・活用をすすめる地域づくりに取り組み、以下のような事業を進める。

- ①松本市田川地区渚のケヤキをめぐる歴史を掘り起こし、駅を中心とした西側の地区において着地型観光の地域資源として活用する。
- ②上土商店街と連携して、松本市中央地区の歴史的資源(松商学園と上土との関わりなど)を掘り起こし、松本らしさを感じられる地域資源の発掘を行い、地域の文化資源である松本電気館の保存・活用を具体的にすすめる。
- ③掘り起こされた地域の魅力を広くPRしていくために、チラシやパンフレットを作成すると

もに、SNS等を活用しながら情報発信をする。

(2)活動内容

2022年度は、コロナ禍により活動が制限されたものの、上土町では、電気館の再生プロジェクトなどが着実に進展する一方で、松本市田川地区渚のケヤキの活用については今後に向けた取り組みが再開された。2022年度の取り組みは以下のとおりである。

①上土商店街と連携した松本市中央地区の歴史的資源の掘り起こし

上土商店街振興組合の50周年事業としても位置付け、これまでの歴史的な街並みをさらに活かしていく取り組みとして、2022年度に作成したフラッグをもとにして、新たに上土町の歴史的な街並みや建築物などをイメージした「大正ロマン」をアピールする街頭フラッグの作成を行った。フラッグ作成は、学生と上土町の関係者の協働で行われ、2022年12月以降街頭に設置した。

②旧松本電気館の再生事業(上土町のまちづくりの中核的事業)

2021年に開催された映画のまちづくりを目指す学習会などの議論を踏まえ着実な取り組みを行った。具体的には、今後の活用に向けまちの拠点として使用するために必要なハード面の整備に加え、映画館に残っていた映画ポスターをデータベース化するなどである。また、映画看板の保全や正面のショーウィンドウのディスプレイなど大正ロマンの街並みの形成を図る取り組みも行った。

③掘り起こされた地域の魅力のPR活動

畑井ゼミによるインスタグラムでの上土の風景の発信「上土Photo」や歴史的な街並みを紹介する「上土タイムスリップマップ」の作成を行った。

④地域資源として松本市田川地区渚のケヤキ活用の取り組み